





# 阪神淡路大震災から22年経過しました 風化させないためには教訓を生かす取り組みを

改めて大都市直下での大地震の怖さを思い知らされたのが阪神淡路大震災でした。 いまでもその教訓を生かすかどうかが、私たち住民と行政（政治）に求められているのではないでしょうか。

1995年1月17日  
午前5時46分  
淡路島北部沖を震源とするマグニチュード7.3の直下型地震が発生。  
最大震度7を記録。  
死者6,434名  
負傷者43,792名

1月17日は、阪神淡路大震災から22年目の日でした。戦後最大の都市型災害で、その光景はテレビなどでリアルに伝えられ、目に焼き付いています。

多くの犠牲を伴ったこの大震災を契機に、耐震基準の見直しなど防災・まちづくりなど大きな転換点ともなりました。22年経過する中で、震災体験の風化

戦後最大の都市型大震災は、いまでも  
私たちに多くのことを語りかけています…

止も重要です。  
住宅の耐震化率100%達成  
や家具転倒防止・感震ブレーカー  
設置など達成に期限を決めて進  
めるべきです。住民の防災意識  
向上とともに、区としての支援  
制度の周知徹底と制度拡充、公  
的住宅の確保による事業推進な  
ど本気の対応が求められます。  
ことでもきたのです。火災も倒  
壊が大きな原因。通電火災の防

最大の教訓は、ほとんどの被害が住宅はじめ建物の倒壊によつて引き起こされたことです。住宅が倒壊されしなければ、窒息圧死も大幅に減つたでしょう。また家具転倒防止の徹底で人の命

### 建物の倒壊は



阪神・淡路  
大震災では  
強い揺れで  
甚大な被害  
が出ました。

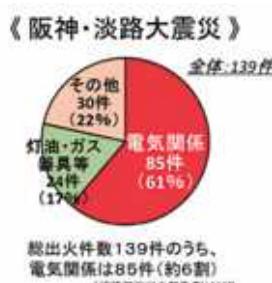
全壞家屋 104, 906 棟  
半壞家屋 144, 274 棟

が言われています。  
首都直下地震など差し迫った危機に、22年前の教訓が生かされているとは決して言えません。

### 火災被害...

全焼家屋 7,036 棟  
火災発生件数 285 件

木造住宅密集地域を中心に、数日間にわたり火災が発生。原因判明の火災のうち、6割が通電火災。停電後、電気が復旧時に火の元になる危険があります。



亡くなった方の原因…  
窒息と圧死 = 77% 熱  
死や熱傷 9% その他  
家屋の倒壊や家具の転倒  
により 多くの方が命を奪  
われました。 家屋の耐震  
化と、家具の固定が大切  
です。

## 今後のデータ 下がり続ける労働分配率

本当に、企業と  
経済は立ち行く  
んでしょうか。  
　　1 社だけの目  
先の話なら通じ  
るかもしだせませ  
んが、すべての  
企業がこんなこ  
とをやつていた  
ら、消費は冷え  
込み物は売れま



「下ばかり続ける均衡分配率」のグラフを見て「はたらけどはたらけど猶わが生活樂にならざつちつと手をせん。自分で自分の首を絞める“集団の誤診”といふ隘路に陥つてゐるよう見えてなりません。

## マイナンバーカードは今どうなっているの？

日本に住民票を持つ人全員に12桁の番号を割り振り、税や社会保障の情報を国が管理するマイナンバー制度が施行されて昨年の10月で1年です。番号通知の郵送やカード発行などをめぐりトラブルが多くありました。

政府はカード普及をはかるうとしていますが、そもそも「個人番号カード」は身分証明の他に今のところ使い道はありません。国民も利便性や必要性も感じないため、カードの申請と交付は荒川区でも申請は1割程度、受取りに来ているのはその6割程度です。以前「住基カード」も鳴り物入りで宣伝されました。区では19,000枚止まり。莫大なムダ遣いでした。マイナンバー、顔写真、生年月日、ＩＣチップが一体となったカードを持ち歩くこ

2016年12月末現在  
荒川区の交付状況